



国立大学法人 香川大学

環境報告書

- 2006 -

ダイジェスト版

～はじめに～

大学の使命は、「知」の創造と継承であり、教育・研究活動を通しての社会貢献です。香川大学は、「世界水準の教育研究活動により、創造的で人間性豊かな専門職業人・研究者を養成し、地域社会をリードするとともに共生社会の実現に貢献する。」を理念としており、「知」が価値を持つ時代、21世紀にふさわしい大学になろうとしています。また、個性と競争力を高めるために「地域に根ざした学生中心の大学」をめざしています。

一方、地球温暖化や資源の枯渇、生物多様性などの地球規模の多くの環境問題を抱え、地域社会においても景観や身近な自然、都市気象、また、少子高齢化や成熟社会にも配慮する必要があるなど、かつて公害といわれた問題にとどまらない幅広い対応が求められています。

香川大学では、6学部及び8大学院研究科(2専門職大学院を含む)を擁し、専門分野のバランスがよい総合大学に発展しており、これらの機能を活かし、幅広い教育研究活動により、環境問題に関する解決能力を持った人材を育み、地域社会に展開する活動を行っています。

香川大学における環境への配慮、地域社会への取り組みや「知」の創造の成果の公表により、社会に貢献していくと共に、香川大学自身がさらなる発展・変革する原動力とし、環境問題の解決に向け進んでまいりたいと考えております。

香川大学学長 一井 眞比古



事業活動における環境配慮の方針・目標・実績

環境配慮の方針

世界水準の教育・研究活動を通し、香川大学の環境配慮に関する活動を広く発信し、環境面での核となり、地域の環境保全・創造及び地球全体の環境に貢献します。

「環境教育を重視する大学」をめざす

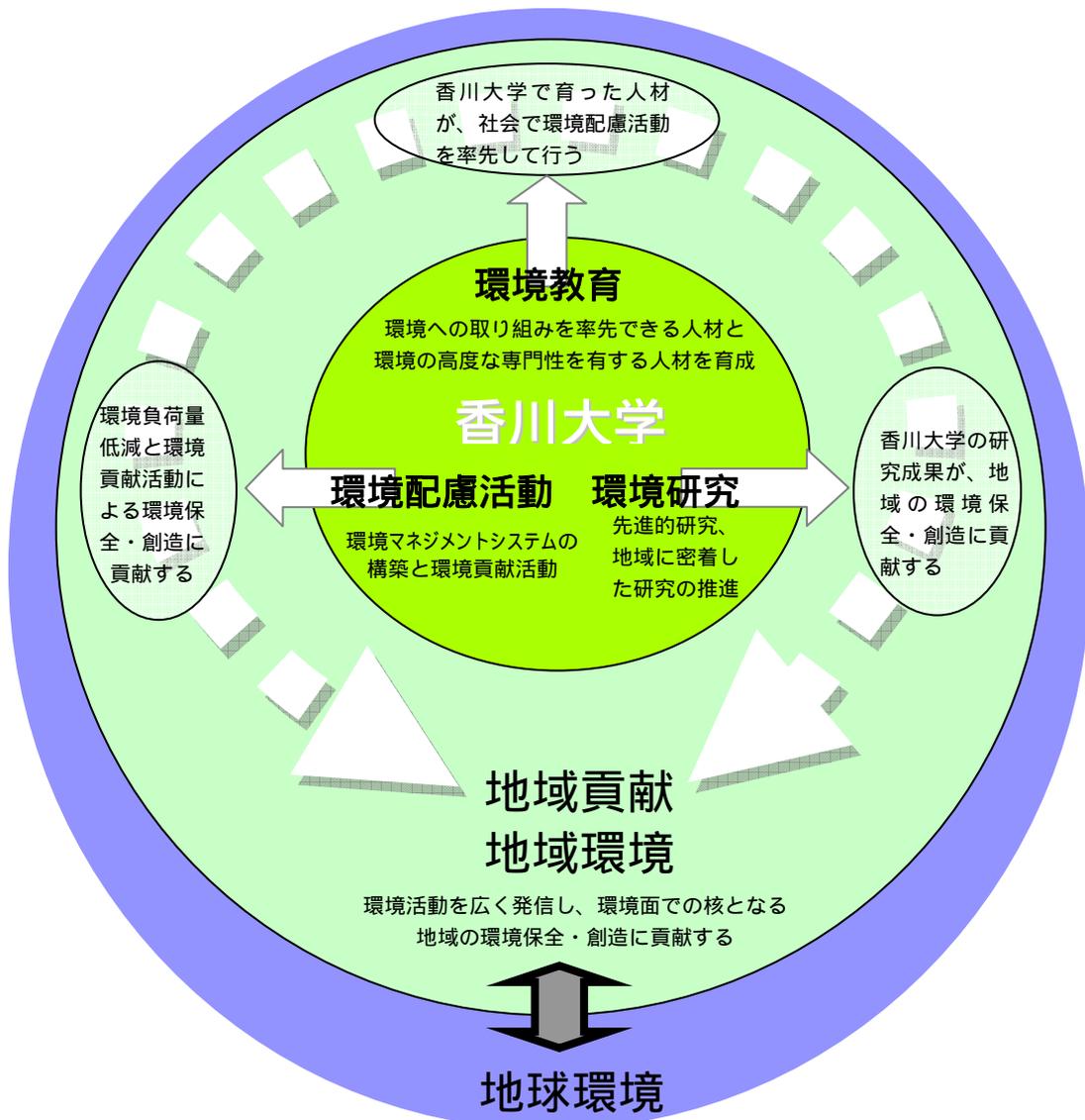
環境配慮への基礎的な力を有し取り組みを率先できる人材及び環境に関する高度な専門性を有する人材を育成します。

「環境面から地域と共に歩む大学」をめざす

環境に関する先進的な研究の成果を地域社会に発信し、併せて地域連携を推進して、環境保全・創造に貢献します。

「人にも環境にもやさしい大学」をめざす

環境マネジメントシステムを構築することによる環境負荷の低減と、環境配慮のための社会貢献活動による、環境配慮活動を行い、環境保全・創造に貢献します。



環境配慮の取り組みに関する目標、計画及び実績等（総括）

3つの環境方針毎に環境目標、計画を設定し、平成17年度の活動状況を実績として、整理しました。

環境方針総括表

（平成17年度）

環境方針（目的）	環境側面	環境目標	行動計画	主な取り組み
環境教育	大学での環境教育	環境分野における幅広い基礎力を有する人材を育成します	環境に関する講義等を充実させます	・環境教育論等の講義
		環境分野における専門的解決力を有する人材を育成します	実験や演習、研究室・ゼミ（卒論・修論等）において、環境をテーマとした教育を充実させます	・各学部、研究科の専門性を活かした環境に関する研究テーマを実験・演習等に反映
		地域や外部との連携による環境分野の分析力と実践力を備えた人材を育成します	地域との交流による地域の環境問題を体現する教育を推進します	・豊島等での現地での教育プログラムの実施
			教育研究成果の外部での発表や外部教育機関との連携を進めます	・学会での発表や連合研究科等での共同教育・研究
	附属学校園での環境教育	児童生徒等に環境知識に関する基礎的な教養を育みます	環境に関する教育活動の質を充実させます	・所属学部以外での講義や他大学との連携教育プログラム等
				・理科や社会、総合学習、校外活動等の様々な授業等による環境教育の実施
		環境意識	環境教育機会の拡充による環境意識を向上させます	リサイクルやごみの分別等を通じ学生等への環境意識の向上を進めます
	地域での環境活動の意識向上に育みます	部局やサークル等による自発的な環境意識啓発を進めます	・大学祭やオープンキャンパス等	



熱心に講義を受けている様子

環境方針(目的)	環境側面	環境目標	行動計画	主な取り組み
環境研究	研究活動の活性化	世界水準の環境研究	先進的、独創的な研究活動を推進します	・生物学的モニタリング法の開発 ・「イオン液体」を用いた教材開発
		研究推進体制の構築	異分野の協力によるプロジェクト研究を推進します	・香川県における自然再生型水圏環境改善技術開発に関する研究
		地域の環境ニーズに即した研究	地域の環境問題に密着したテーマや先進的なテーマでの研究を推進します。	・うどん製造過程廃水の浄化と再資源化、地域産業の副産物の有効利用等の研究
	外部との研究協力体制	産学連携・知的財産の活用	地域開発共同研究センターを中心として産官学交流を推進します	・技術相談・技術交流の実施 ・共同研究、セミナー等の実施
	環境研究成果の発信	地域のニーズ等に併せた積極的な環境研究成果の発信	市民公開講座、出前授業、研修会、教員派遣等を行い、環境研究成果の展開や交流を促進します	・海洋調査船体験航海等の公開講座や環境シンポジウム等を開催



先進的な研究(希少糖)



緑を活かした街づくりのために

環境方針(目的)	環境側面	環境目標	行動計画	主な取り組み
環境配慮活動 (負荷量の低減)	紙類等の使用量	紙類使用量を今後5年間で5%以上削減します	コピー用紙等の裏紙利用を促進します	・両面コピーの実施
			電子ペーパー等を促進します	・レントゲンのフィルムレス化の検討
	エネルギー使用量	エネルギー使用量を平成16年度比で、今後5年間のうちに5%以上削減します	冷暖房の使用を控え、電気使用量を低減します	・冷房28、暖房20設定、クールビズ推進
			低燃費車の導入、通勤等での自動車の使用を控え、ガソリン使用量を低減します	・低燃費車の導入 ・エコ金デーにマイカー通勤自粛 ・自主的なアイドリングストップ
			照明の昼休み消灯、使用していない施設(廊下等)の照明、機器等の電気は消します	・人感センサーによる照明の節約等
			ボイラーの運転回数を削減し、重油使用量を低減します	・ボイラー運転回数の低減 ・冷温水器を省エネタイプへ変更 ・熱回収装置導入
		新エネルギーの導入の推進	自然エネルギーの導入拡大を検討します	・太陽光発電の導入
	水使用量	水使用量を今後5年間で5%以上削減します	トイレ、洗い物、実験棟における節水を心がけます	・節水シールによる呼びかけ ・節水ゴムの使用
廃棄物排出量	廃棄物分別を徹底し、廃棄物の発生抑制、リユース、リサイクルを促進します	分別リサイクルボックスを設置し、一般ごみの減量を推進します	・自販機を構内へ設置し、外部へ廃棄しない	
		使い捨て商品なるべく使用せずごみ減量を推進します	・廃棄物排出の量的把握は今後の課題	
製品購入量	「グリーン購入」の環境に配慮した製品購入を推進します	消耗品の購入は、エコ商品を優先します機器選定時には、環境に配慮した省エネ機器等を優先します	・グリーン購入の目標を100%とする	

環境方針（目的）	環境側面	環境目標	行動計画	主な取り組み
環境配慮活動 （負荷量の低減）	循環資源	循環資源の使用を推進します	中水や裏紙等の循環資源化の推進します	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物のリサイクル装置でエネルギーとして回収予定 ・排水の廃水処理により中水として利用 ・裁断用紙の家畜用敷床利用
	化学物質管理、化学物質アレルギー対策	化学物質の適正管理体制を拡充します	特別管理物質等の廃棄物を削減します	<ul style="list-style-type: none"> ・レントゲン撮影等のフィルムレス化を検討 ・平成 27 年度までに PCB を処理 ・石綿を平成 18 年度までに全て処分(含有率 1 % を越えるもの)

環境方針（目的）	環境側面	環境目標	行動計画	主な取り組み
環境配慮活動 （環境貢献活動）	社会貢献活動	ボランティア活動等を通して地域の環境への貢献を行います	地域の環境保全活動に参加し、学生が環境意識の高い地域社会の一員としての自覚を得るとともに、地域住民の意識向上と環境への貢献をめざします	・クリーンキャンパス活動等を実施
	国際交流	国際的な見地での研究・教育を通しての環境貢献をします	留学生の交換や大学間協定により環境面での国際交流を深めます	・留学生の交換や共同研究の実施
	環境活動の発信	香川大学の環境活動を公表します	年 1 回の環境報告書やHPを通じて環境活動を一般に公表します	・環境報告書の公表

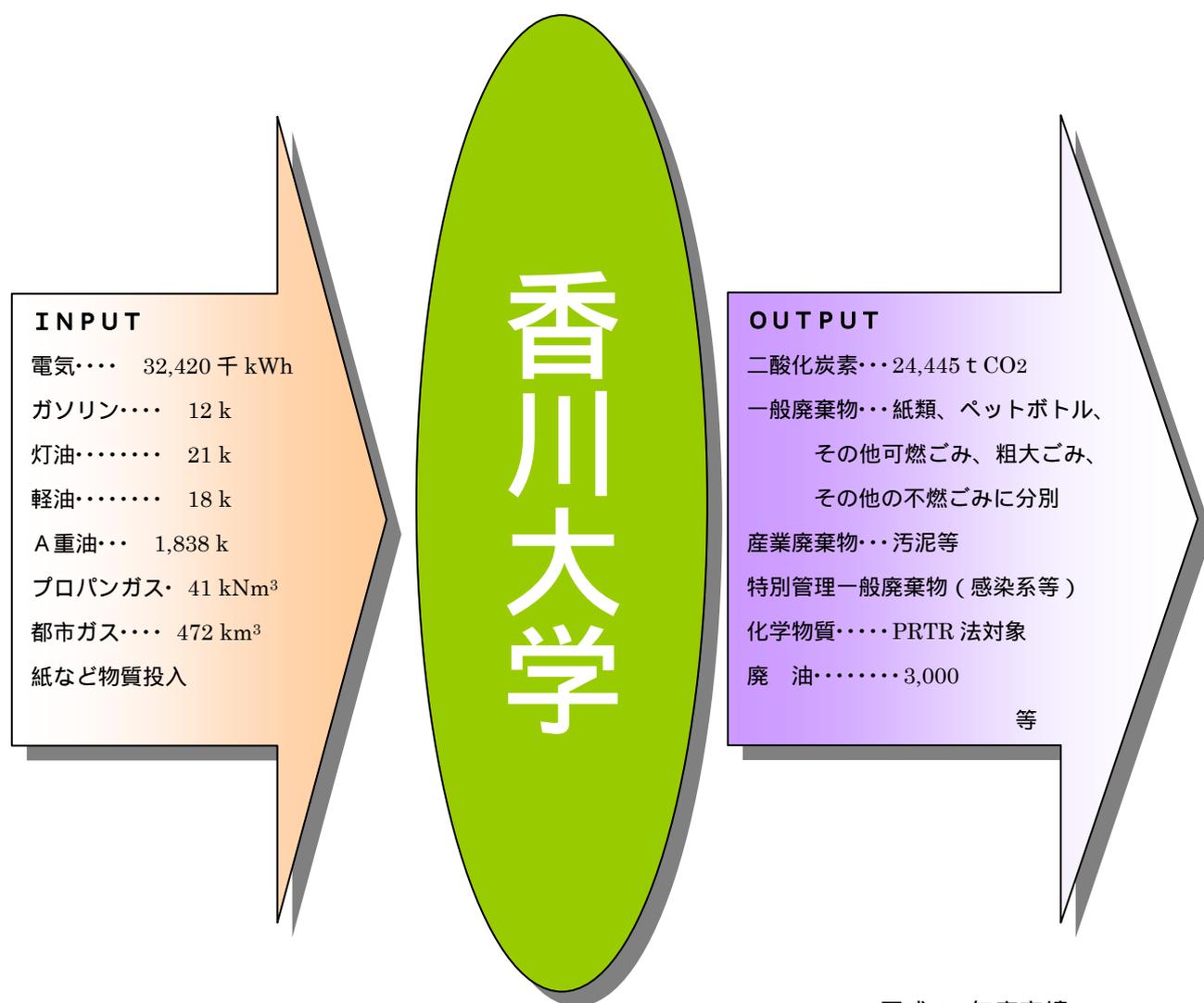


エコロジカルなキャンパスシステム（工学部）

「自律調和型の科学技術の創造」という理念のもと、工学部のキャンパスは環境との調和に配慮したエコキャンパスシステムが導入されています。また、周辺地域の豊かな田園地帯との調和も考慮した景観や近隣の農地への日影などについても考慮するなど、近隣地域とも調和がとれたキャンパスづくりがなされています。

マテリアルバランス

大学運営にあたっては、電気、A重油などのエネルギーと水や紙類などの資源を消費し、様々な形で環境への負荷を与えています。そのため、香川大学におけるエネルギーや物資の収支を示し、環境負荷量を認識することとします。

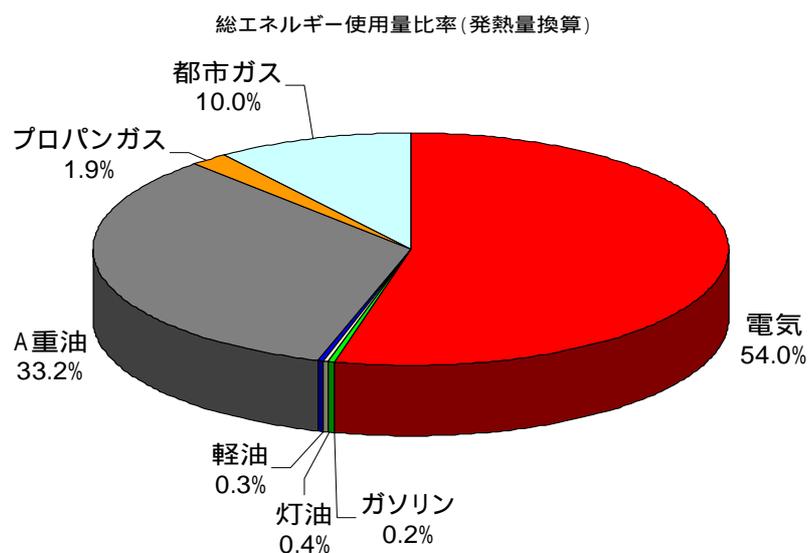


平成 17 年度実績

< 香川大学の物質収支イメージ >

エネルギー使用量

各種エネルギーの使用量の比率は各年度で大きな変動は無く、電気が最も大きく、全エネルギー使用量の半分以上を占め、次いで、A重油、都市ガスの順でこの上位3種で9割を超えています。そのため、今後エネルギー使用量の削減のためには、電気とA重油を対象とした省エネルギー機材導入や適切な使用、効率化などによる削減対策が重点となります。



平成 17 年度 総エネルギー使用量 (発熱量換算)

種類	使用量	単位発熱量* (GJ)	使用量 (発熱量換算 (GJ))
電気 (kWh)	32,419,895	0.0036	116,712
ガソリン (kl)	12.246	34.6	424
灯油 (kl)	21.402	36.7	785
軽油 (kl)	18.045	38.2	689
A 重油 (kl)	1,838.024	39.1	71,867
プロパンガス (kNm ³)	41.180	99.0	4,077
都市ガス (天然ガス換算 km ³)	472.118	46.0	21,717
合計			216,271
k cal(1GJ=238000kcal)			51,472.5 × 10 ⁶ k cal

* 単位発熱量は、「総合エネルギー統計」資源エネルギー庁(平成 14 年 2 月)資料、都市ガスは種別発熱量、プロパンガスは LP ガス協会 HP 資料

注：都市ガスは平成 17 年度に天然ガスに変更されているため発熱量で換算

ボランティア活動

地域の方々との合同清掃の実施

- ・香川大学教育学部学生連合ネットワーク（略称 SUN、教育学部学生自治組織）による大学近隣住民の方達との大学周辺の合同清掃活動



近隣の方と合同清掃活動



国立大学法人 香川大学 環境報告書 - 2006 - ダイジェスト版

編集 香川大学事務局環境管理室 エコレポートチーム
発行 平成18年9月

〒760-8521
香川県高松市幸町1番1号
電話 (087)832-1137 F A X (087)832-1136
URL <http://www.kagawa-u.ac.jp/>